

The 30th Annual Meeting of the Japanese Society of Studies on Addictive Behaviors

第30回 日本嗜癖行動学会 秋田大会

プログラム・抄録集

会期 2019年11月23日(土・祝)・24日(日)

会場 秋田市にぎわい交流館AU

大会長 米山 奈奈子 秋田大学大学院医学系研究科 教授

メイン
テーマ

嗜癖社会のゆくえ —嗜癖問題からの回復—



The 30th Annual Meeting of
the Japanese Society of Studies on Addictive Behaviors

第30回 日本嗜癮行動学会 秋田大会

プログラム・抄録集



嗜癮社会のゆくえ — 嗜癮問題からの回復 —

会期 2019年11月23日(土・祝)・24日(日)

会場 秋田市にぎわい交流館AU

大会長 米山 奈奈子
秋田大学大学院医学系研究科 教授

第30回 日本嗜癮行動学会秋田大会 事務局

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 内

〒010-8543 秋田県秋田市本道1丁目1-1

TEL 018-884-6545 FAX 018-884-6545

E-mail: shiheki@hs.akita-u.ac.jp

ご 挨拶

第30回日本嗜癮行動学会 秋田大会

大会長 米山 奈奈子

秋田大学大学院医学系研究科 教授

この度、第30回日本嗜癮行動学会秋田大会を、来る2019年11月23日(土)～11月24日(日)に秋田市にぎわい交流館にて開催させていただくこととなりました。

日本嗜癮行動学会は、嗜癮行動を調査研究対象とする先駆的な学会として1990年代に東京で発足しました。当初はアルコール・薬物問題が中心でしたが、摂食障害やギャンブルの問題、そしてクレプトマニアを研究対象に含めるなど、つねに現代社会問題をリアルにコミットしてきた経緯があります。

嗜癮行動は、アルコール・薬物などの物質嗜癮、ギャンブルや盗癖などの行動嗜癮、共依存などの人間関係嗜癮と大きく三つに分類されます。近年とくに、インターネットの普及によって、ゲーム障害やSNSなどのネット依存が深刻な問題として注目されるようになってきました。こうした嗜癮を必要としている社会が今後、回復へ向かうのか、病を深めていくのか、私たちはしっかりと見据える必要があります。

そこで今回の学術集会では『嗜癮社会のゆくえ ―嗜癮問題からの回復―』といたしました。様々な嗜癮問題からの回復をどのように支援できるのか、挑戦者たちの叡智を学会の場で共有し情報発信をすすめたいと考えております。多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

ご 案 内

I. 学会概要

メインテーマ：嗜癮社会のゆくえ ―嗜癮問題からの回復―

会 期：2019年11月23日(土・祝)～24日(日)

会 場：秋田市にぎわい交流館 AU(秋田市中通一丁目4番1号)

大 会 長：米山 奈奈子(秋田大学大学院医学系研究科 教授)

大会事務局：秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻内

〒010-8543 秋田県秋田市本道1丁目1-1

TEL：018-884-6545 FAX：018-884-6545

E-mail：shiheki@hs.akita-u.ac.jp

大会HP：http://jssab30.umin.jp/

II. 参加者の皆様へ

1. 参加申し込み

【参加資格】

11月23日(土・祝)1日目：学会員、および、守秘義務を負う専門家(学校教員およびそれぞれの課程の学生を含む)

11月24日(日) 2日目：参加資格は問いません。どなたでもご自由に参加いただけます。

【参 加 費】

- ・事前申込：学会員7,000円 非会員8,000円 学生3,000円(大学院生以外)
- ・当日申込：学会員8,000円 非会員9,000円 学生3,000円(大学院生以外)
(上記は市民公開講座を含みます)
- ・懇親会参加費：6,000円
- ・市民公開講座参加費：一般参加費1,000円(当日徴収)

2. 参加受付について

大会両日共に、受付は9:30開始となります。

※会場へは9:00より前には入場出来ませんのでご注意ください。

【事前に参加登録をされた方】

- ・当日受付の必要はございません。ネームカードを着用の上、直接会場にお入りください。
- ・事前にお送りした抄録集・ネームカードを必ずお持ちください。ネームカードへはご自身でご所属とお名前をご記入ください。ホルダーは、受付付近にご用意いたします。
- ・ネームカード(参加証)、抄録集のお忘れ・紛失による再発行はできません。必要な場合は、別途ご購入(1,000円)ください。

【当日参加登録をされる方】

- ・「当日参加登録用紙」に必要事項をご記入のうえ、受付においでください。
- ・受付にて当日参加費をお支払いのうえ、抄録集・ネームカードをお受け取りください。
- ・クレジットカードのご利用はできません。

3. 演題発表

【座長の皆様へ】

- セッション開始5分前までに、会場にお越しください。
- 1演題につき発表は15分、質疑応答は5分です。

【演者の皆様へ】

- セッション開始15分前までに、直接会場にお越しください。順に、データの取り込みと確認をしていただきます。ご自身のPCを利用される場合は事前に事務局にお知らせください。
- 1演題につき発表は15分、質疑応答は5分です。
- 発表の際、終了1分前と終了時にベルでお知らせします。
- 配付資料がある場合は、ご自身で必要部数をご準備ください。
- やむを得ず演者が交代する場合等は、必ず事務局にお知らせください。
- 症例報告では、プライバシーに十分ご配慮ください。

4. ワークショップについて

ワークショップは、前半講義、後半グループ体験を予定しています。後半のグループ体験は先着30名で受付いたします。希望者は総合受付でお申し込みください。

5. 懇親会について

開催概要は以下の通りです。空きがある場合は当日も受付します。

日 時：2019年11月23日（祝・土）18:30～20:30

会 場：秋田キャッスルホテル

会 費：6,000円

Ⅲ. 入 会

学会への入会をご希望の方は、学会当日に「学会受付」へお越しいただくか、下記事務局へご連絡ください。

〒106-0045 東京都港区麻布十番2-14-6 イイダビル2F
家族機能研究所内
日本嗜癪行動学会事務局 担当 山中 宛
TEL：03-5476-6041 FAX：03-5476-6543
E-mail：society@iff.or.jp
URL：http://www.iff.or.jp/society/

Ⅳ. 日本精神神経学会専門医資格更新について

本学会は、日本精神神経学会の専門医資格更新のためのポイント取得対象学会として認定されております。

日本精神神経学会の専門医認定証をお持ちの方は、当日ご持参ください。なお、2日目の市民公開講座はポイント対象外となります。

Ⅴ. その他

1. 駐車場（有料）がございますが、混雑が予想されるため、公共交通機関をご利用ください。
会場周辺では巡回ワンコインバスも運行しております。
(<http://www.akita-chuoukotsu.co.jp/>)
2. 昼食は近隣の飲食店をご利用ください。

会場アクセス



お車でお越しの場合 …… 秋田自動車道 秋田中央インターチェンジ降車後直進
「エリアなかいち」に有料駐車場あり

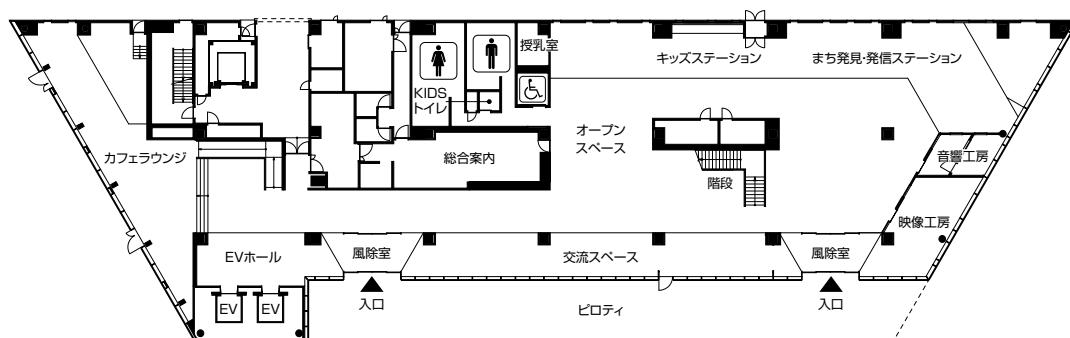
新幹線でお越しの場合 …… JR秋田駅降車 秋田駅西口から徒歩10分

飛行機でお越しの場合 …… 秋田空港から秋田駅行リムジンバスで
秋田駅西口(終点)下車 徒歩10分

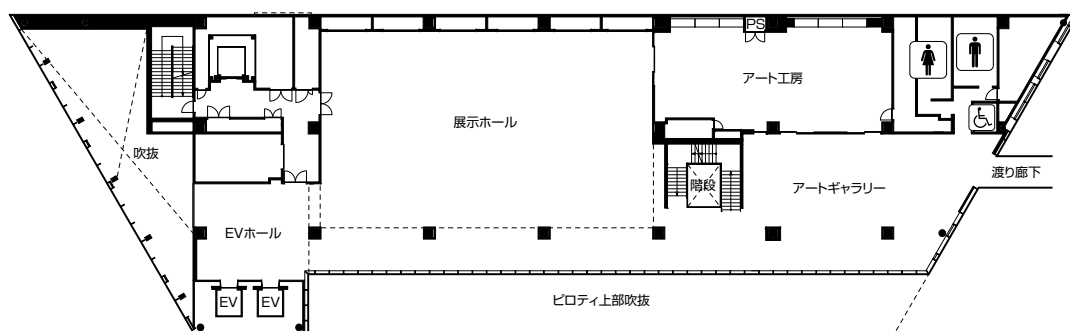
会場案内図

秋田市にぎわい交流館AU

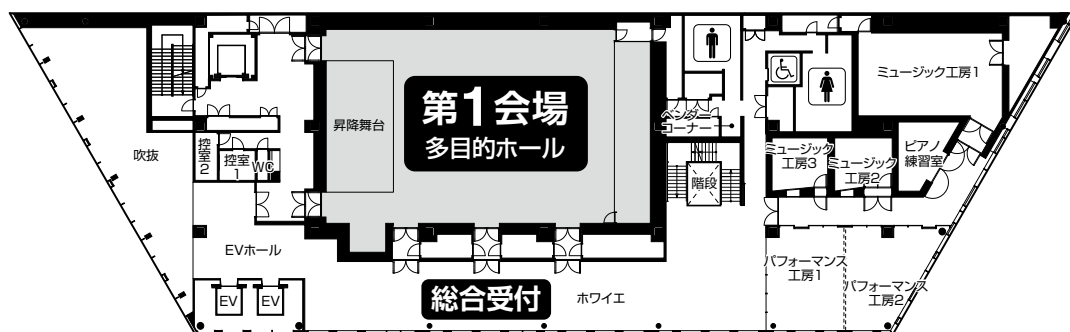
1F



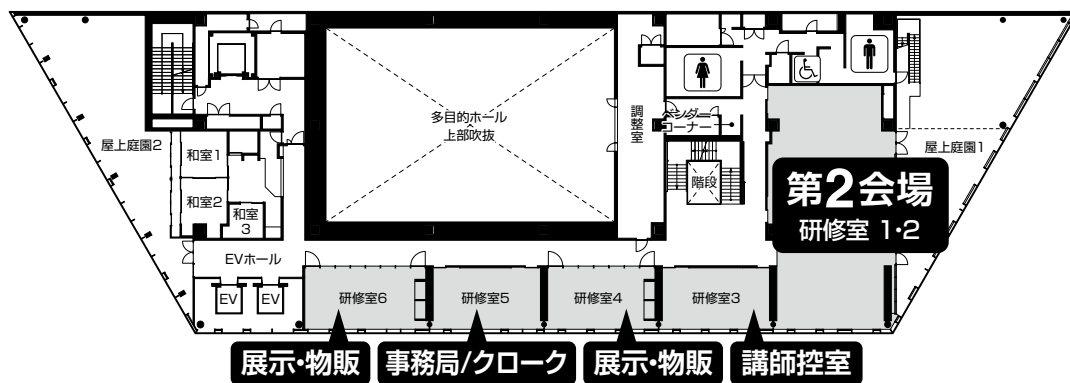
2F



3F



4F



第1日目 2019年11月23日(土・祝)

	第1会場 3F 多目的ホール	第2会場 4F 研修室1・2	展示・物販 4F 研修室4, 6	理事会 4F 研修室3
9:00				
10:00	10:00～ 開 会 式		9:00～17:20	
11:00	10:20～12:00 一般演題：5題		展示・物販	
12:00				12:00～13:00 理事会
13:00				
14:00	13:30～14:30 教育講演Ⅰ 薬物依存症者の家族が抱える困難と相談支援の意義 講師：近藤 あゆみ	13:30～17:20 ワークショップ 当事者の回復を支援するドラマセラピー：安全と安心 講師：後藤 恵 大矢 照美 ほか		
15:00	14:40～15:40 教育講演Ⅱ リプロセスリトリート®とはなにか —トラウマサバイバーの自立と回復を支える心理療法的アプローチ—			
16:00	15:50～17:20 ミニシンポジウム 秋田県のアアルコール健康障害対策実践報告 —地域で関係機関のネットワークを構築する— シンポジスト：村上 綾子、久野 昌美、柴田 仁美			
17:00				
18:00	17:30～18:00 総 会	講師：鈴木 美奈子、中井 由子		
	18:30～20:30 懇 親 会 会場：秋田キャッスルホテル			

第2日目 2019年11月24日(日)

	第1会場 3F 多目的ホール	第2会場 4F 研修室1・2	展示・物販 4F 研修室4, 6	理事会 4F 研修室3
9:00				
10:00	10:00～11:30 市民公開講座Ⅰ 共依存と自己愛パーソナリティ障害 講師：齋藤 学	9:00～15:30	9:00～15:30	
11:00		展示・物販	展示・物販	
12:00				
13:00	13:00～15:30 市民公開講座Ⅱ ゲーム障害の治療と回復支援 シンポジスト：松崎 尊信 渡邊 祐美子 田中 紀子			
14:00				
15:00				
	15:40～ 閉 会 式			

プログラム

第1日目 11月23日(土)

第1会場(3F 多目的ホール)

10:00～

開会式

10:20～12:00

一般演題

座長：香山 雪彦(一般財団法人桜ヶ丘病院)
小泉 典章(長野県精神保健福祉センター)

1 依存症を抱える女性の回復を支援する取り組みに対するニーズ調査

○小西 奈美、十倉 絵美
京都橘大学 看護学部

2 底つき体験は治療継続に関与するのか？ ～昭和大学附属烏山病院での経験から～

○須藤 英隼、常岡 俊昭、小野 英里子、高塩 理、岩波 明
昭和大学附属烏山病院

3 長野県におけるギャンブル障害(DSM-5)対策について

○小泉 典章、根井 南実
長野県精神保健福祉センター

4 「死ぬ」ということばの使われる社会について

○上原 立人
タカハシクリニック

5 摂食障害の状態と年代による対応法の違いについての考察： 身体状況と何が不安なのかに基づいて

○香山 雪彦¹⁾²⁾
1)一般財団法人桜ヶ丘病院、2)福島県立医科大学 名誉教授

13:30～14:30

教育講演Ⅰ

座長：吉岡 幸子(帝京科学大学医療科学部看護学科)

薬物依存症者の家族が抱える困難と相談支援の意義

近藤 あゆみ(国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
薬物依存研究部 診断治療開発研究室長、
同センター病院 薬物依存症治療センター 精神保健福祉士)

14:40～15:40 **教育講演Ⅱ**

座長：米山 奈奈子（秋田大学大学院医学系研究科）

リプロセスリトリート®とはなにか —トラウマサバイバーの自立と回復を支える心理療法的アプローチ

鈴木 美奈子（東北会病院附属ワナクリニック／西尾リプロセス協会）

中井 由子（社会福祉法人 麦の子／西尾リプロセス協会）

15:50～17:20 **ミニシンポジウム**

座長：熊澤 由美子（秋田大学大学院医学系研究科）

佐藤 光幸（特定医療法人仁政会 杉山病院）

秋田県のアルコール健康障害対策実践報告 —地域で関係機関のネットワークを構築する

シンポジスト：

村上 綾子（秋田県大仙保健所）

久野 昌美（秋田保護観察所）

柴田 仁美（秋田県精神保健福祉センター）

17:30～18:00 **総 会**

第2会場（4F 研修室1・2）

13:30～17:20 **ワークショップ**

当事者の回復を支援するドラマセラピー：安全と安心

動機づけ面接法とドラマセラピーワークショップ

愛と尊重による「楽しい」治療技法 —当事者・回復者援助職からの声

後藤 恵（翠会 HCG 精神医学研究所 副所長、
都立松沢病院 依存症治療コンサルタント、
東京医科歯科大学 精神行動医科学分野 非常勤講師）

物語で紡ぐドラマセラピーへのお招き

大矢 照美（東京都立松沢病院 看護師）

第2日目 11月24日(日)

第1会場(3F 多目的ホール)

10:00～11:30 **市民公開講座Ⅰ**

座長：赤木 健利(特定医療法人富尾会 桜が丘病院)

共依存と自己愛パーソナリティ障害

斎藤 学(家族機能研究所)

13:00～15:30 **市民公開講座Ⅱ**

座長：米山 奈奈子(秋田大学大学院医学系研究科)

ゲーム障害の治療と回復支援

ゲーム障害の治療と回復支援

松崎 尊信(独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター精神科 医長)

学校におけるネット・ゲーム依存の実態と対応

渡邊 祐美子(北海道千歳北陽高等学校 校長)

ギャンブル依存症の家族支援：民間団体の立場から

田中 紀子(公益社団法人 ギャンブル依存症問題を考える会)

15:40～ **閉会式**

教育講演Ⅰ

薬物依存症者の家族が抱える困難と 相談支援の意義

座長：吉岡 幸子（帝京科学大学医療科学部看護学科）

演者：近藤 あゆみ（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
薬物依存研究部 診断治療開発研究室長、
同センター病院 薬物依存症治療センター 精神保健福祉士）

薬物依存症者の家族が抱える困難と 相談支援の意義

近藤 あゆみ

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
薬物依存研究部 診断治療開発研究室長、
同センター病院 薬物依存症治療センター 精神保健福祉士

薬物依存症者をもつ家族の生活は実に過酷である。逮捕、暴力、精神症状、借金など薬物使用者本人の問題に巻き込まれ対処に追われる日々が持続するなかで、家族自身も気がつかないうちに心身の健康が徐々に低下し、視野の広い冷静な思考力や適切な判断力が失われていくのである。このような家族に対するわが国の相談支援体制は長い間未整備の状況にあり、家族会など当事者活動に依存する状況が続いてきたが、近年になってようやく精神保健福祉センターなどを中心に拡充がはかられつつある。

筆者らは、家族支援の充実に資するため、2010年より「薬物依存症者をもつ家族を対象とした心理教育プログラム」（以下、家族心理教育プログラムと記す）の開発および普及を行ってきた。家族心理教育プログラムの教材は、

- (1) 薬物依存症や回復について正しく理解できる
- (2) 薬物依存症者に対する適切な対応法を学び実践できる
- (3) 家族自身の心身の健康を取り戻せる

という3つの目標に添った内容であり、また、5種類の基礎教材と11種類の補助教材から成っている。家族教室など集団心理教育の場を想定して作成したものであるが、個別相談のなかでクライアントのニーズに応じた教材を選び活用することも可能である。

2017年からは、全国の子精神保健福祉センターおよび医療機関で家族心理教育プログラムに参加した家族を対象とした効果評価研究を実施している。これまでに得られた結果によると、多くの家族は薬物関連問題の影響を日常的に受け精神的に疲弊しているが、それは支援によって徐々に改善していくことが示されている。また、家族心理教育プログラムへの参加を通して、家族と本人との葛藤やイネーブリグが減少し、家族が本人の問題に支配されて頭を悩ませる時間が短縮され、さらには、家族支援が本人の治療支援状況の改善にも良い影響を及ぼす可能性も示されている。

上記のとおり、家族支援は様々な意味で意義深いものであるといえるが、短期間で十分な効果を期待することは難しく、薬物問題の影響を受けて過酷な生活を強いられる家族を継続的に支援していくことこそが重要であるといえよう。今後は、精神保健福祉センターや保健所などの公的機関や精神科病院における家族支援の拡充をはかるとともに、これらの関係機関と家族支援を担うもうひとつの重要な存在である自助グループや家族会など当事者活動との連携を推し進め、多様な家族のニーズに応えることができる幅広く継続的な支援体制の構築が待たれる。

略 歴

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 診断治療開発研究室長、同センター病院 薬物依存症治療センター 精神保健福祉士。

2004年東京大学大学院医学系研究科健康科学看護学専攻単位取得済退学。2005年学位（保健学博士）取得。国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 流動研究員、新潟医療福祉大学 講師・准教授を経て、2015年より現職。

日本アルコール・アディクション医学会理事、NPO 法人 GAIA 薬物・アルコール依存症リハビリセンター／NPO 法人 栃木ダルク／NPO 法人 RDP 横浜 役員を兼務。

主著として、「薬物依存症者の家族がもつ多様なニーズを満たすための家族心理教育プログラムの開発に関する研究 ―薬物依存症者をもつ家族の支援を行う関係機関職員を対象とした調査結果から―」（新潟医療福祉大学 社会福祉学部編『社会福祉の可能性』所収：相川書房、2011）、など。

Blank lined paper with horizontal dashed lines for writing.

一般演題

座 長：香山 雪彦（一般財団法人桜ヶ丘病院）
小泉 典章（長野県精神保健福祉センター）

依存症を抱える女性の回復を支援する取り組みに対するニーズ調査

○小西 奈美、十倉 絵美

京都橘大学 看護学部

【目的】 依存症からの回復は、依存行為をやめるだけでなく、生活の再構築を図る必要がある。その回復過程において、女性が抱える課題や支援は多岐に渡る。そこで、当事者自身のニーズに応じてオーダーメイドの回復プログラムを組み立てていける環境を整えたいと願う、本研究者を含めた、当事者・支援者による、支援団体が結成された。そこで今回、当団体主催セミナー参加者のニーズを明らかにし、ニーズに応じたプログラムを可能にしていくための基礎資料を得る。

【方法】 セミナー受付時、質問紙を筆記具と共にクリップボードにはさんで配布した。セミナー開始前に本研究の意義と目的を口頭にて書面をみながら説明し、セミナー終了後あるいは、帰宅時に回収した。回答をもって同意を得たものとした。測定項目は、①対象者背景、②セミナーに関する項目：セミナー情報入手源、セミナー参加目的、目的達成度、感想、セミナーへの要望、今後の自身の生活にセミナーがどのように役に立つか、とした。なお、セミナー内容は主に、①講演（テーマは「依存症とトラウマ」）と、②当事者体験談であった。京都橘大学倫理委員会の承認、公益財団法人キリン福祉財団 平成30年度キリン・地域のちから応援事業助成を得て行った。

【分析方法】 記述統計量を算出し、自由記載は意味内容の類似性で分類、カテゴリー化を行った。分類や命名の妥当性について研究者間で検討した。

【結果・考察】 アンケート回収数は70部。

参加者の年代は、20代～70代と幅広く、40代17名(26%)や60代16名(24%)が多かった。参加者の立場は、当事者が約半数35名(51%)、次いで、支援者18名(26%)、家族8名(12%)、などであった。セミナー情報入手源は、チラシが38名(53%)と最も多く、その他、家族会や通院先、学校の掲示、市民だよりなどであった。参加目的(回答者数n/平均目的達成度%)については、情報収集(16/78.8%)、回復のため(8/63.1%)、体験談をきく(7/80%)、トラウマについてきく(5/63.8%)、支援に役立てたい(4/65%)、などであった。トラウマについての講演に対する感想はわかりやすく理解を深められたという感想が多かった。体験談については、良かったという感想も多い一方で、自分とは異なることや、重たい話、自分と重なり辛かった等の回答もあった。セミナーへの要望は、依存症に関わるほかの障害についての話や、家族との関係、セミナー回数増加、居場所感、様々な体験談などがあった。セミナーが、「今後の生活に役立ちそうか」の問いに対しては、役に立つ55名(79%)、どちらでもない3名(4%)、役には立たない1名(1%)無記載等11名(16%)であった。参加目的や目的の達成度は様々であるが、多くの方は、本セミナーは今後の生活に役立てられると回答されていた。このことから、セミナーに参加することは、それぞれの回復プログラムや支援につなげられる可能性が示唆された。

Blank lined paper with horizontal dashed lines for writing.

第30回日本嗜癆行動学会 秋田大会

大会長：米山 奈奈子

事務局：秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻内

〒010-8543 秋田県秋田市本道1丁目1-1

E-mail：shiheki@hs.akita-u.ac.jp

担当：猪股

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

<https://secand.jp/>

第30回 日本嗜癪行動学会秋田大会 事務局

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 内

〒010-8543 秋田県秋田市本道1丁目1-1

TEL 018-884-6545 FAX 018-884-6545

E-mail: shiheki@hs.akita-u.ac.jp